



参考)ハードコンタクトレンズのフィッティングの見方

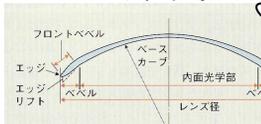
シードコンタクト研修テキスト基礎コース
東原尚代: OCULISTA No.14P2~4

Dr.がする検査だが参考として。

装用初心者が多いが、涙が多く出て判定を誤ることがある場合があり、点眼麻酔をすることも必要。

正面視させ、ゆっくり瞬目させてから、下眼瞼ごしに指でHCLを角膜中央部に移動させて、蛍光反射による涙液層の静的装着状態を観察する

HCLのデザイン



渡邊 深: 眼科学第1版 P1090



フィッティング法には上眼瞼保持型フィッティングと瞼裂内フィッティングがある。

*角膜がほぼ球面

周辺は少く中心にいくほど多い	平均的にほぼ全体的にある	周辺は多く中心にいくほど少ない

アイミーハードIIの処方手順より

ベベル幅はサイズが8.8mmの時、0.6mm程度が良い。

*角膜が直乱視

3-9時方向弱主経線に圧迫がある	3-9時方向に圧迫がほぼない	蛍光反射は上下の部分に多い

東原尚代: OCULISTA No.14P3 他

ステープ: 急峻
フラット: 平面
パラレル: 平行
エピカル: 頂点
アライメント: 最適
クリアランス: 隙間
タッチ: 接触

B.C

ステープ	パラレル(良好)	フラット	ステープ	まずまず良好	フラット
------	----------	------	------	--------	------

フルオパターン

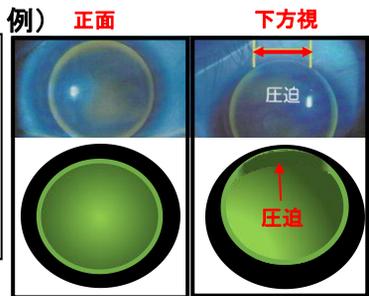
エピカルクリアランス	エピカルアライメントタッチ	エピカルタッチ	エピカルクリアランス	ややエピカルクリアランス	エピカルタッチ
------------	---------------	---------	------------	--------------	---------

自然の開瞼状態でゆっくり瞬目させ、HCLの動き、静止部位などの動的装着状態を観察する

微動型 動きが極端に少ない	緩徐下降型 滑らかに下降して中央に落ち着く	側方蛇行型 左右に蛇行する	中心偏位型 センタリングがずれる	急速落下型 下方まで速い動きで落下する	上(下)固着型 上方又は(下方)に固着する
ステープ	グッド 2秒間に2mmが目安。	少しフラット	少しフラット	一般的に非常にフラット	一般的に非常にフラット

下方視させてレンズエッジが周辺の角結膜を圧迫していないか確認する

東原尚代: OCULISTA No.14P4 に加筆



ややステープ
ベベル幅やや狭小

上方に圧迫

エッジリフトを大きくする

- ()は下方固定の場合
- 一般的にサイズを小さ(大き)くする
 - 一般的にB.Cを小さ(大き)くする
 - エッジリフトを広くする
 - 強度近視の場合フロントを薄くする



眼瞼下垂や眼瞼圧が強い上方固定はサイズを小さく、瞬目が浅い眼瞼圧が弱い下方固定は大きくする。BCは約0.10mmで0.5D変更。

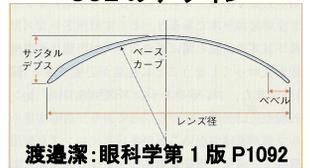


強度近視はレンズが厚くなって上眼瞼により上方固定となる。

判定基準)

- 瞬目でレンズがスムーズに動く
- 瞬目後センターリングにずれがない
- 左右に蛇行しない
- 角膜輪部を超えるほど下がらない
- レンズエッジによる角結膜の圧迫がない

SCL のデザイン

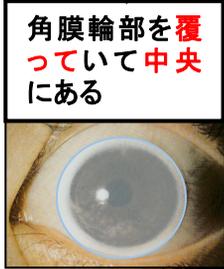


正面視させ、SCL のサイズと瞬目後のセンタリングを観察する

装用初心者が多いが、涙が多く出て判定を誤ることがある場合があり、点眼麻酔をすることも必要。

レンズが角膜輪部より内方に入ると異物感、角膜障害の原因になる。

土至田宏: OCULISTANo.14P19 図3に加筆



グッド?

タイト?

ルーズ?



上方視で瞬目させて SCL の下方への動きを観察する

レンズの下方への動きが1~2 mm 前後でスムーズである

レンズに動きがない

レンズの下方への動きが0.5 mm 以下でスムーズな動きがない

レンズの下方への動きが3 mm 以上で不安定な動きがある

グッド

固着?

タイト

ルーズ

正面視させ検者が下眼瞼ごしに指でレンズを上方へ数mm ずらし、レンズの戻り方をみる



土至田宏: OCULISTANo.14 P20 図7に加筆

レンズの動きがスムーズで元の位置に安定する

上方へ全くずれない

レンズの動きが鈍く、元の位置に戻り難いか戻らない

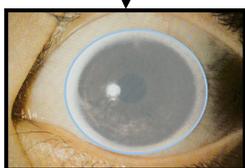
レンズの動きが速く、下眼瞼縁までずれる

良好

固着

タイト

ルーズ



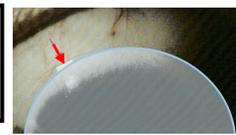
正面視させ角膜の3時、9時、12時の位置で球結膜にレンズエッジ部分が食い込んでいないか確認する(特に12時方向)



赤線の位置ね!

土至田宏: OCULISTANo.14 P20 図7に加筆

例) 下方視させると、上方の球結膜のレンズエッジ部分に食い込みがあった!



土至田宏: OCULISTANo.14 P19 図6に加筆

上、下、側方視での眼球運動に伴うレンズのスムーズな動きを確認する

判定基準)

- ・レンズが角膜輪部を完全にカバーしている
- ・センタリングのずれがなく、レンズの動きがスムーズで過少がない